

～円柱供試体の作製に関する注意事項～

iTECS 技術協会

強度推定式の作成には、供試体の作製、養生が正規の手順で行われていることが前提です。また、初期材齢における有害な振動はコンクリート強度の発現に影響を及ぼします。これまで、上記に対する配慮が少なかったことに由来すると思われる不具合が、数例報告されておりますので、細心の注意で供試体の作製、養生、発送をして頂きますようお願い申し上げます。

1. 円柱供試体のサイズは $\phi 100\text{mm} \times L200\text{mm}$ としてください。
2. 円柱供試体は12本作製してください。
3. 円柱供試体は配合ごとに作製してください。
 - ※例1：調査対象部材が柱部，壁部の2部材で配合が異なる場合
⇒それぞれの部材で作製。
 - ※例2：調査対象部材が桁（P1・P2間），桁（P2・P3間）で配合が同じ場合
⇒どちらかの部材で作製。
4. 製作時期は同一配合コンクリートの試験練りの段階，または構造体コンクリートの打込み時として下さい。
5. 円柱供試体の型枠は使い捨てができるタイプとして，プラスチック製モールドまたは軽量モールドとして下さい。
6. 円柱供試体はJIS A 1132 に準じて，確実に作製してください。
7. 水分が乾燥しないよう，厚手のビニール等で確実に封緘養生して発送時期まで静置して下さい。

この時期に封緘が破れますと，後の強度発現に大きく影響しますので，次ページの養生例のように，湿らせたウエスなどを使用して養生されることを推奨いたします。
8. 型枠から脱型せずに，材齢5～6日頃（早強の場合は2～3日目午前中頃）に強度推定式作成者に到着するよう，送付して下さい。
9. 円柱供試体は送付中に損傷の無いよう，型枠の上からエアパッキングで2～3回梱包し，“ワレモノ”として送付して下さい。

～円柱供試体の養生方法例～



- ① 湿らせたウエス等を供試体上面にかぶせ、その上から厚手のビニール袋（写真は市販のフリーザーパック用のビニール袋）で覆い、密閉する。



- ② 供試体上部密閉状況



- ③ 厚手のゴミ袋（70L程度）に入れ、余分を供試体に巻き付けて、ガムテープで接着する。



- ④ エアパッキング等の緩衝材を2~3回巻き付け、緩衝材を敷き詰めた段ボール箱に収める。
※この際、段ボールが底抜けしないように注意してください。
※「ワレモノ」扱いとして発送してください。